



On a tour of the Toshiba Medical Engineering Center
are Dr. and Mrs. Arenson and Dr. and Mrs. Moore and Dr. Dwyer. 1984. 8. 29

牧野純夫顧問を偲ぶ

「偲ぶ」というタイトルを書いてみましたが、まだまだ、とてもそんな気持ちにはなれません。牧野さんは永遠に青年の魂を持たれて、私たちの傍にいて下さるような気がしています。我々が困った時、一番若々しく柔軟性を発揮されてアイデアを出されるのが牧野さんでした。「そもそも何なの?」「何をしたいの?」とよく言われ、本質を捉えた議論に戻され、先を見た物の流れを示して頂きました。

写真は1984年に日本PACS研究会主催の第1回国際PACS学会の後に関係者が東芝那須工場を訪問した時の写真です。PACSという名称を1982年に世界で最初に使ったDr. Dwyerの顔と牧野さんの笑顔が見られます。このように牧野さんは、世界の動きを真っ先に取り入れ、しかも世界の一流の方々を仲間にされることを楽しまれておられたようです。この国際学会実施の時から放射線機器は総合画像診断の一つであるとお考えを持たれ、現在の日本画像医療システムの姿がみえておられたのかもしれませんが。

現在私が会長をしている日本PACS・PHDS研究会（設立当時は日本PACS研究会）は1983年に牧野さんの御指導、御支援を頂き設立されました。さらに電子保存のきっかけとなったMEDIS-DC（医療情報システム開発センター）と共同で進めたIS&C委員会（現在のePHDS委員会）の設立

にも御援助を頂きました。説明を熱心にお聞きいただき、その方向性を示していたのを記憶しています。

鮮明に記憶に残っていることは、東芝が海外進出に力を入れる話になった時、牧野さんが言われた事は、「一番大事な事は那須工場に洋式トイレを作ることだよ」と言われた事です。人の行動の原点を深くつかまれておられると大変感心したのを覚えています。いつも冗談を言われ、皆を笑わせておられたのも楽しい思い出です。そのゆとりは何処から生まれるのでしょうか。

また、私が本社の企画担当時代、「自分は夢を語るから、企画部門はそれを数値にしろ」とよく言われました。夢を追われ、1歩1歩実現されて行かれる姿を近くで見せて頂きました。

これからは困った時は心に牧野さんを思い描き、「牧野さんなら笑顔でどう言われる？か、どう動かれる？か」を原点にしたいと思います。本当に長い間有難うございました。天国でも皆様に囲まれ、楽しくお過ごしください。

日本PACS・PHDS研究会 会長 喜多 紘一